



シリーズまち・ひと・しごと - #81 第49回利根町民納涼花火大会

夜空を彩る花火と 夏のひととき

8月22日に、夏の風物詩「第49回利根町民納涼花火大会」が開催されました。当日は雨の予報が出ており、土砂降りも心配されていましたが、無事に開催することができ、会場には多くの人が訪れました。

盆踊りでは、華の会や斉真舞踊研究所、太鼓チームの皆さんにご協力いただき、おなじみの「炭坑節」や「とねりん音頭」をはじめ、今年から加わった「ウルトラソウル」などで会場は大いに盛り上がりました。

また、徳満寺による川施餓鬼（灯籠）

流し）では、水面を静かに流れる灯籠が幻想的で、花火大会の夜に彩りを添えました。

会場内では、今年も「ゆかたde撮影会」を同時開催。浴衣姿で訪れた皆さんを中心に、会場の様子を撮影しました。

露店商や各種団体によるテント出店、キッチンカーも並び、訪れた皆さんのお腹と心を満たしていました。

そして、花火の打ち上げが始まると、夜空いっぱい色とりどりの花が咲き、会場からは大きな歓声と拍手が上がりました。夜空を見上げながら、家族や友人と花火を楽しむ姿が見られ、今年も夏の思い出に残る一夜となったことでしょう。

